

## 世と教界を見る目を養う(14)

### =バビロンの系譜①=

**御言葉: 黙示録2:9-10; エゼキエル23:14-18**

(1) **イスラエルとユダ**: イエスラエルは偶像礼拝(ヤロブアムの罪)のゆえにBC.721にアッシリヤに捕囚、その後姿を消す(失われた十部族); ユダはBC.586、バビロンに捕囚→70年後に帰還

(2) **ユダヤ人は南王国(ユダとベニヤミン)**: 北王国は厳密にはユダヤではない! →黙示録2:9-10のサタン<sup>の</sup>の会堂(シナゴグ)とは来た王国由来のもの; オカルト的力を崇拝し、サタンの下に王国を作らんとする勢力; イエスと教会およびユダヤの残された者たち(トーラー信奉者かつ反シオニスト)に敵対する

(3) **カバラ思想**: 伝承教義・伝統の意味; バビロン捕囚の際古代バビロンの霊的影響を受ける(エゼキエル23:14-18); 東洋神秘思想; ラビの隠れた知恵; バビロンの天文学や思想の影響で、秘儀を与る人々; ピタゴラスの教秘思想の影響; プロアスター教的二元論(善と悪の戦い); 口述伝承; タナイム(Tanaim)が最初のカバリスト; 書かれた聖書によらず、一部の霊的エリートたちに聖霊から直接に啓示されたと称する

(4) **パリサイ派**: タナイム(律法教師)から派生; バビロン捕囚中にカバラを組織; バビロンの科学的知識による; 知的階級で、兄弟団を構成; エルサレム陥落後力を強める(サンヘドリンを支配); 秘儀・秘密の奥義・秘密組織化; 異教の儀式(エゼキエル8:5-14); 現代のフリーメーソンやシオニストと類似→イエスと対立(マタイ23:27-28); 人間的力で王国を建て、秘密主義的教義を浸透させる

(5) **エッセネ派**: クムラン教団; 死海の側に集団生活(死海文書); 天使論の教師(バビロンの天使論や悪魔論の影響受く); カバラ思想書籍の管理人; ザドクの子孫、神殿祭司を誇る→グノーシスのルーツ; 仏教的な神秘思想・輪廻思想; ハスモン家の反逆の時代からヘロデ時代を経て、エルサレム陥落で姿を消す

(6) **アレクサンドリア・グノーシス**: エジプトのグノーシスはカルデアの影響を受ける; キリスト教に先立つ; ユダヤ教と密接に関係する; カバラ思想のキリスト教化と言える(=ユダヤ神秘思想); 霊と魂・肉の隔絶を説き、十字架の贖いなしに霊が神と結合する; 霊と肉の断絶(キリスト化現論); フィロの思想(ヘレニズム化されたユダヤ人; セラピュータイ); 彼の死後「オルムス団」や「光の教師」が出現(オルメスス: マルコによって伝道されたエジプトのマジ)→後にキリスト教的グノーシス(ヨハネと対立)

(6) 今日ユダヤ人の分裂: **カバリスト・シオニスト、ノン・シオニスト、トーラー・ユダヤ**→イエス・ご自身を見えなくされている(2コリント4:4)